

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 33 号

巻頭言



2023年10月22日発行

発行責任者 芳川玲子

〒259-1292

平塚市北金目 4-1-1

東海大学文化社会学部心理・社会学科

「芳川玲子」研究室

「高める」生徒指導から「支える」生徒指導へ～改訂版「生徒指導提要」

ご存じのとおり、2022年12月、生徒指導を取り巻く環境の変化や課題の深刻化等を踏まえて、「生徒指導提要」が12年ぶりに全面的に改訂されました。今回の改訂版「生徒指導提要」（以下、「改訂版」）では、「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」座長の八並光俊先生（東京理科大学）のご尽力によってすべてがデジタルテキストになっており、活用しやすい体裁になっています。

改訂版では、生徒指導の定義を「生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。」(p.12 下線筆者)とし、「生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つものと言えます。」と指摘しています。これについて、2010年4月に発行された旧版では「生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」(p.1 下線筆者)となっており、旧版では「高める」であったのに対し、改訂版では(児童生徒が)自発的・主体的に成長や発達する過程を「支える」となっており、成長や発達をする主体は児童生徒であり、私たち教育に携わる者はそれを「支える」という姿勢がより明確になっています。そして、「生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や支援を行う」存在として、学校心理士が重要な役割を果たすことは言うまでもありません。

また、改訂版は、生徒指導の構造として2軸3類4層構造で整理していますが、この3類は、学校心理学の「3段階の心理教育的援助サービス」の考え方と非常に親和性が高いものです。改訂版は教育相談における教職員に求められる姿勢として、「指導や援助の在り方を教職員の価値観や信念から考えるのではなく、児童生徒理解(アセスメント)に基づいて考えること。」「児童生徒の状態が変われば指導・援助方法も変わることから、あらゆる場面に通用する指導や援助の方法は存在しないことを理解し、柔軟な働きかけを目指すこと。」「どの段階でどのような指導・援助が必要かという時間的視点を持つこと。」の3点を挙げていますが、ここでも、生徒指導のあらゆる段階(あるいは層)において、今後ますます学校心理士によるさまざまなサポートが求められると考えられます。

本年6月18日(日)に開催された南関東ブロック春季研修会において、「発達支持的生徒指導と学校心理士の役割」というテーマで講演された八並先生は、「改訂版は夏休みの終わりまでにすべての先生方に読んでほしい」というお話をされ、「2019年に発生した児童虐待のような事件を二度と起こしてはならない」という強い思いを伝えられました。また、昨年7月に実施された第5回公認心理師試験の最後の問題では、児童虐待の事例を取り上げ、それに学校の対応について問われました。改訂版では、第Ⅱ部で「個別の課題に対する生徒指導」として、いじめ、暴力行為、少年非行、児童虐待、自殺、中途退学、不登校、インターネット、性に加え、多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導として、発達障害や精神疾患等も取り上げられています。私たちは学校心理士として、これらの課題に「チームで理解・チームで支援」するため、いっそうの資質向上に努めていきたいと考えています。

(神奈川支部役員 三藤 敏樹)

2023 年度神奈川支部総会報告

1. 日時 2023年6月18日(日) 14:00~14:30
2. 場所 ウィリング横浜 (Zoomによる同時配信実施)
3. 総会の議事と審議結果
 - (1) 開会
 - (2) 支部長挨拶 芳川 玲子
 - (3) 議事
 - 第1号議案 2022年度事業報告並びに決算・監査報告・・・承認
 - 第2号議案 2023年度事業計画案並びに予算案について・・・承認
 - その他
 - ・准学校心理士について
 - ・日本学校心理士神奈川支部役員一覧について
 - ・『神奈川支部の20周年記念行事について』

★神奈川支部の活動等については、HPでご確認・ご活用ください。

<https://sp-kanagawa.net/>



★神奈川支部へのご質問・ご連絡は、メールにてお問い合わせください。

メールアドレス : info@sp-kanagawa.net

2023 年度 神奈川支部研修会

- ▶第62回研修会 2023年6月18日(日) ウィリング横浜 (Zoom同時配信)
 - 講演: 「発達支持的生徒指導と学校心理士の役割」
 - 講師: 八並 光俊先生 (東京理科大学教育支援機構 教職教育センター教授)
- ▶第63回研修会 2023年10月22日(日) ユニコムプラザさがみはら
 - 講演: 「発達支持的生徒指導の視点に立った授業づくり
～子どもの社会的スキル横浜プログラムがめざすもの～」
 - 講師: 蒲地 啓子先生 (帝京大学大学院客員准教授)
- ▶第64回研修会 2024年2月18日(日) ウィリング横浜
 - 講演: 「SEL (Social & Emotional Learning) について」 (仮題)
 - 講師: 渡辺 弥生先生 (法政大学文学部教授)

第62回研修会報告

日時 2023年6月18日(日)
場所 ウィリング横浜
(Zoomによる同時配信実施)

「発達支持的生徒指導と学校心理士の役割」

講師:東京理科大学教育支援機構 教職教育センター 教授 八並 光俊先生



今回の研修会は、『生徒指導提要』改訂版のための「生徒指導提要の改定に関する協力者会議」座長を務められた、東京理科大学教育支援機構 教職教育センター 教授 八並光俊先生に上記のテーマでご講演いただきました。八並先生ご自身の生活経験、教員としての指導実践や研究活動等の具体的な事例を交えたお話からは、子どもたちへの情熱、深い思いとともに、『生徒指導提要』改訂版に込めた、児童生徒に関わる教職員への大きな期待を感じ取ることができました。『生徒指導提要』改訂版をはじめ、各関係法規等を読み込み、今後の児童生徒指導場面やそれに係る教職員への助言等の場面に生かしていかなければならない。これまでの自分自身の在り方について振り返り、新たな視点や次なる課題等を得られた、学びの多い時間となりました。

生徒指導提要(改訂版)の特色

提要とは、ミニマムエッセンス=必要最小限の共通知識。今は、自分の経験則で指導できる時代ではない。また、教員によって生徒指導の知識の差が大きすぎる現状がある。『生徒指導提要(改訂版)』は、各トピックを取り上げても事後学習や研修等ができるようになっている。

生徒指導の定義

生徒指導は、人間教育そのものであり、総合的な個別発達支援である。児童生徒が社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。

リーガルナレッジの確実な習慣

学校現場では、いじめ問題等を法的に解決しようとする法化現象が起きている。教職員は、基本的な法律の知識(リーガルナレッジ)、法律の遵守(コンプライアンス)を身に付ける必要がある。これは、児童生徒の命を守り、自分自身を守り、学校を守ることに通じる。

2軸3類4層の重層的な支援

何か起きてからの対応(リアクティブ)では、多くの時間を要する。また、チーム援助も現実的には無理が生じてくる。児童生徒の将来のキャリア実現を見据えた、先手型・予防型の「プロアクティブ」生徒指導の充実を図ることを改訂版では重視している。

アセスメントに基づくチーム支援

生徒指導は、児童生徒の実態把握が重要となる。生徒指導と教育相談を一体化し、アセスメントを広く浅くやっていくことがポイントとなる。授業は児童生徒と教員の相互作用であり、授業の様子から相互の関係性が見える。特に授業観察によるアセスメントは重要である。

発達支持的生徒指導

児童生徒理解を深めるためには、教員が意図的に子どもや保護者に自分の思いや考えを伝えていくことが大切である。教員への理解がなければ子どもたちは困った場面で教員を頼ることはできない。また、カウンセリングも子どもや保護者の理解があってできるものである。

子どもばかりに注目せず、①児童生徒・保護者の教員理解 ②教員自身の生きた生き方モデルとしての自覚 ③平素の児童生徒への思いやりと優しさ ④授業型生徒指導による社会性の獲得 こうした視点のシフトチェンジが必要である。

ガイダンスプログラム(ガイダンスカリキュラム)

授業での感動・発見・協働は、いじめや不登校、問題行動等の抑止効果に繋がる。教科の学習と生徒指導を結びつけた、いじめ等の未然防止教育や「子どもの社会的スキル横浜プログラム」をはじめとした、社会的スキル獲得の体験型学習に取り組むことは有効である。

生徒指導の危機管理(生徒指導は常に危機と背中合わせである)

- ①備えよ 常に Beprepared!
- ②洞察力=観察眼 Observant Eye (子どもを見る目がどれだけ深く広いかで変わってくる)
- ③内在力を信じる Believe Intrinsic Power (その人を突き動かしているものを理解する)

生徒指導の3つの視点

- ①学級経営の3R 規律(Rule)、責任(Responsibility)、他者への尊厳(Respect)
- ②授業づくりと生徒指導は表裏一体
- ③教師の情熱、挑戦心、創造力、言動

学校心理士、SCは…

一人一人の子どもの味方になる。そのためには、子どもをよく見なければならない。(子どものことをわかっていると過信していることもある。)子どもたちが持って生まれたものを深く探って、強く引き出す。あきらめの悪い学校心理士、SCになる。

本の紹介



「算数文章題が解けない子どもたち ことば・思考の力と学力不振」

著者 今井むつみ

楠見孝/杉村伸一郎/中石ゆうこ/永田良太/西川一二/渡部倫子
岩波書店(2022年6月発行)

教科の習熟度を測るテストから、どの子どもがよくできているか、どの子どもができないかがわかる。しかし、つまずいている子どもがなぜつまずいているのかについては、そのテストからはわからない。つまずきの原因を「読解力が足りない」で済ませていては支援につながらない。著者の認知科学・教育心理学の長年の研究の成果をもとに、学力の基盤となることばに関わる知識を測る「ことばのたつじん」と数・形の概念理解、推論能力を測る「かず・かたち・かんがえるたつじん」の2つのテストを開発。その理念と内容、実施結果を紹介し、それで測る力が算数・国語の学力とどのような関係にあるのかを質的・量的に検討されています。子どもが何につまずいているのかについて推察する範囲が広がり、多様な視点を持った指導・支援へと繋がる一冊としてお勧めいたします。

[編集後記]本年度に入り、様々な制約が軽減されたものの、再び新型コロナウイルス感染者の増加や例年よりも早い時期からのインフルエンザの流行。また、9月以降も暑さ厳しく、熱中症対策の必要な状況が続いている等、支部会員の皆様におかれましては心休まることない毎日をお過ごしのことと思います。様々なご不便をおかけしておりますが、今後も試行錯誤しながら、より充実した神奈川支部の活動となるよう努めてまいります。

ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp (編集部)